

令和7年度新SBIR制度加速事業評価結果(所見)

対象施策	評価項目	委員の所見 (優れた点や改善を要する点など)
【科学技術振興機構(JST)】 大学発新産業創出プログラム(START)プロジェクト推進型(SBIRフェーズ1支援)	1. 計画に示した取組の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応募数、採択件数に関しても満足な成果が出ている。 ・ 応募前に、期間内に確実に成果を出し、かつフェーズ2につながるようするための、申請書作成のアドバイス(壁打ち会)のようなものを開催するなど、応募件数を増やしかつ質も向上するための取り組みを検討してはどうか。 ・ 応募、採択件数も増加しており、予算執行の進捗およびフェーズ2への橋渡しも評価できる。
	2. 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、政府調達なども含め、グローバル展開していくようなスタートアップ創出を見据え、更にプログラムを磨き上げて行って欲しい。 ・ プログラムマネージャーを現地に送るのは非常に重要だと思うので、そのような取り組みをされていることを評価。タイミングの検証をされるのもよい取り組みだと思う。
	3. 事業体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ フェーズ2を見据えた事業開発の道筋を初期の段階から見据えて進めていくことを期待する。 ・ プログラムマネージャー体制の充実に加え、機関全体での支援体制が評価できる。
	4. 「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公募の段階で、研究期間が8か月に限定されることを強調し、過去の事例紹介などを通じて、応募者の期待値を調整する必要があるのかもしれない。

令和7年度新SBIR制度加速事業評価結果(所見)

対象施策	評価項目	委員の所見 (優れた点や改善を要する点など)
【厚生労働省】 障害者自立支援機器 等開発促進事業	1. 計画に示した取組の 着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ ステージゲート審査を経て、2件の採択は着実な事業進展と考えられる。 ・ 一方、件数の絶対数が他プロジェクトに比して相対的に少なく、また開発進捗も相対的に遅延している。 ・ フェーズ2に採択されなかった案件については、どのような項目がネックになっているのかを点検し、必要ならば、フェーズ1段階で適切なフィードバックや伴走支援ができるように、改善を図って欲しい。
	2. 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業体系の構築にも関係するが、フェーズ2事業であるという状況を鑑み、今後は、より人(採用)や組織も含めた、経営に関する具体的な支援を、より充実させるべきとの印象を持った。そのためにも、達成目標の(1)と(2)からバックキャストしながら、伴走体制を整えていく必要がある。 ・ 開発進捗の遅延は開発計画自体の初期設定に課題があったように見受けられる。そのままにせずプログラクマネージャーによる改善が行われたことは評価できるが、開発計画の見直し内容から見るに、計画段階および評価段階で回避できたように考えられる。手戻りがない開発計画は重要であり、その点の支援をより強化頂きたい。
	3. 事業体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府調達につながるような取り組みを、厚労省側で何か打てる手はないか検討して欲しい。 ・ 技術面と事業面それぞれ2名を各社につけている点は最低限評価される体制といえる。一方、プログラクマネージャーに任せる以外の組織全体での支援体制についても検討して欲しい。
	4. 「指定補助金等の交付 等に関する指針」の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ フェーズ2としては妥当。一方、NEDO、JSTなどから、アウトリーチの様々な取り組みの情報を得て、参考にしてはどうか。

令和7年度新SBIR制度加速事業評価結果(所見)

対象施策	評価項目	委員の所見 (優れた点や改善を要する点など)
<p>【生物系特定産業技術研究支援センター(BRAIN)】</p> <p>「知」の集積と活用 場によるイノベーション創出のうちスタートアップへの総合的支援</p>	1. 計画に示した取組の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの全体像が非常にわかりやすくなった。このようなわかりやすい情報整理は、本事業を目指そうとする企業や研究者を増やす効果が期待できる。 ・採択企業の進捗は順調であると言える。他方、応募件数の絶対数については限定的であり、プロジェクト全体のクオリティを担保するために絶対数が求めらると思料する。 ・昨年は採択なし、本年度は採択が一件となっている。今後は、何らかの形で、BRIDGE予算対象の採択案件を増やしていくことを目指していく必要もあると思料する。
	2. 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・支援プログラムを「卒業」した案件も含め、今後は、法人の設立にとどまらず、VCや戦略パートナーなどからの外部出資も含め、具体的な事業開発の結果を出していく必要がある。
	3. 事業体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムマネージャー体制の充実に加え、機関全体での支援体制が評価できる。 ・メンタリング、毎月のセミナーなど、様々な取り組みは評価できる。今後は、出資にとどまらず、事業化を担当する経営人材獲得、営業・マーケティング体制の構築などに積極的に取り組んでいく必要があると思料する。
	4. 「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな施策を実施し、支援プログラムの卒業企業も巻き込んでいる点は非常によいと思う。現在、連結事業がまだ少ない状況であるが、日本の競争力が期待され、成長が見込める分野だけに、今後、フェーズ2に進む候補事業に拍車がかかるようなら、より積極的な予算要求を検討すべきだと思う。 ・各種の広報活動、公募説明会の開催、説明動画等の積極的なアウトリーチ活動は評価できる。

令和7年度新SBIR制度加速事業評価結果(所見)

対象施策	評価項目	委員の所見 (優れた点や改善を要する点など)
【新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)】 研究開発型スタートアップ支援事業 (SBIR推進プログラム)	1. 計画に示した取組の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応募、事前相談を経て採択に至るまで、件数も含め、十分な成果が出ている。 ・ プログラムの周知を高めるための努力が実っているのは、PRだけでなくプログラム自体が機能しているからだと推測する。 ・ 応募件数、認知状況、フェーズ2への接続等、いずれも相対的に優れているプロジェクトになっていると考える。
	2. 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的な伴走支援、その効果も評価できる。今後は、案件の性格にもよるが、NEDOにおける様々な取り組みも組み合わせ、グローバル展開の可能性を見つけていくことを期待する。 ・ 特にSBIRの根本であるニーズ元への技術提供とスタートアップの事業性のバランスを目指す支援内容は評価でき、さらに強化することでSBIR事業自体の価値向上につながると考える。
	3. 事業体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府調達などに関しても、バックキャストしながら、着実に成果が出ていると思料する。 ・ 今後は、特にフェーズ2事業について報道機関等に取り上げられるような活動を期待する。 ・ プログラムマネージャー体制の充実に加え、機関全体での支援体制が評価できる。
	4. 「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNSなども含め、幅広いアウトリーチを試みている点は評価できる。今後は、効果測定を踏まえ進めていくことを期待する。

令和7年度新SBIR制度加速事業評価結果(所見)

対象施策	評価項目	委員の所見 (優れた点や改善を要する点など)
【国土交通省】 交通運輸技術開発推進制度(SBIR省庁連携型)	1. 計画に示した取組の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ ステージゲート審査を経て3件の採択および継続支援は妥当である。 ・ 応募状況および採択状況は順調である。
	2. 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、フェーズ2事業として、現在の「革新的な技術」をいかに具体的に事業化するかが重要。「事業体系の構築」にも関連するが、現状では、ビジネス・ディベロップメントのストーリー立てが弱い印象を受ける。技術面での支援のみならず、将来の事業化のビジョンから逆算し、一層、人(採用)や組織も含めた経営に関する具体的な支援を、より充実させるべきとの印象を持った。 ・ 事務的な負担が過度にかからないようにしないと、研究への影響のみならず、事務局との関係性にも悪影響が出かねない。特に入口の契約事務は、フェーズ2事業全体に対する印象を悪くしかねないので、注意が必要。本事業は政府調達を出口としてとらえる側面があるので、事務(手続き面)の伴走支援も場合によっては検討を要するかもしれない。
	3. 事業体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラムマネージャーと研究課題との適合性が適切かどうかを、点検するしくみがないように見受けられた。進捗状況や市場の実態によって、技術寄りのプログラムマネージャーもしくは事業寄りのプログラムマネージャーが必要な局面が異なる。課題担当プログラムマネージャーのモニタリングの他、担当プログラムマネージャーは1課題あたり複数いるほうが望ましい。常時、複数担当で伴走する必要はないが、進捗が滞らないようにするには、工夫が求められる。 ・ 進捗を評価するうえでも個別案件に対する発表者の解像度が低く、実際の進捗の如何とは独立してプロジェクト全体のコントロール機能に対して理解を進めることができなかった。そのような状況下で、プロジェクト進捗に応じてプロジェクトマネージャーのリソースアロケーションやその他専門性のある人材の投入の必要性など、求められるアクションが実行できるのか疑義がある。各プロジェクトマネージャーの活動は評価されるが、組織全体を活用した活動にはまだ不足がある。
	4. 「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「第10回交通運輸技術フォーラム」の開催やマッチングイベントに加えて、何らかの追加のアウトリーチの手段を考えていく必要もある。 ・ 手続き実務への不満が出る体制を改善いただきたい。

令和7年度新SBIR制度加速事業評価結果(所見)

対象施策	評価項目	委員の所見 (優れた点や改善を要する点など)
【環境省】 環境補選研究費補助金(イノベーション創出のための環境スタートアップ研究開発支援事業)	1. 計画に示した取組の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ フェーズ2事業として、NEDOからの連結として、3件の応募、2件の採択は十分とは言えないが妥当。 ・ 審査員が全員、大学関係者のため、事業性の評価で、民間企業ならではの視点が審査でかけていないか、少し懸念する。不採択となったものの有望な事業者には他の支援事業を紹介するなど、検討いただきたい。 ・ 採択企業の進捗は順調であると言える。他方、応募件数の絶対数については限定的でありプロジェクト全体のクオリティを担保するために絶対数が求められると思料する。
	2. 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実用化に向けて事業体制の構築も求められる段階であるが、テクノロジーブッシュのマネジメントという側面が強いという印象を受ける。「事業体制の構築」にも関連するが、より将来の顧客を見据え、マーケット・インの視点を取り込んだ取り組みと支援が必要。今後は、技術面での支援のみならず、将来の事業化のビジョンから逆算し、一層、人(採用)や組織も含めた経営に関する具体的な支援を、政府調達の可能性も見据えながら、より充実させるべきとの印象を持った。省庁として、伴走支援の具体的な内容の把握を一層進めていく必要も感じる。 ・ 順調に進んでいる。
	3. 事業体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラムマネージャー体制の充実度は一般的であり順調である。他方、機関全体での支援体制が強化されることでSBIR事業の成功率の向上とその評判による応募件数の増加が望まれる。
	4. 「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、より幅広いアウトリーチの工夫もあると良い。